

5. まなびの魅力を伝える教科教室

中学は各教科ごとの専用教室と生徒の居場所となるHB（ホームベース）からなります。教科専用教室は各教科の資料などが常時見て触ることができ、まなぶことの魅力を生徒に伝える場になります。HBに隣接する教科教室は、各クラスのCR（クラスルーム）にもなります。

4. なんでもできる大きな教室

小学校の教室は通常の教室の約2倍の広さ。全員で、グループで、友達同士で共創的な授業が展開でき、自由にレイアウト可能な大きさです。

3. 教室をつなぐ光のプロムナード

ハイサイドライトから光が降り注ぐ空間です。9学年と特別教室を結び、授業や展示、活動が展開する場となり、子どもたち同士が直接触れ合って学習（共創）できます。

7. 学校を象徴する共創空間

開放・共用・専用、それぞれの活動が透明なガラスを通して見ることができます。デジタルテクノロジーを使い、見えるけど分かれている。分かれているけど一緒にいる。つながれる。学校全体を「多様性から生まれる共創空間」として設計した、この学校を象徴する一体空間です。

2. みんなで使う共用エリア

大アリーナ、中アリーナ、音楽室、創作アトリエ、キッチンスタジオ、音楽スタジオミーティングルームなどは学校と地域の人々とが互いにシェア（共創）できる場所です。

場所をシェアすることで、地域と学校の活動をつなぎます。

ICTを活用した予約システムを導入し、学校も地域も互いにスムーズに安全に活用できることを可能にします。

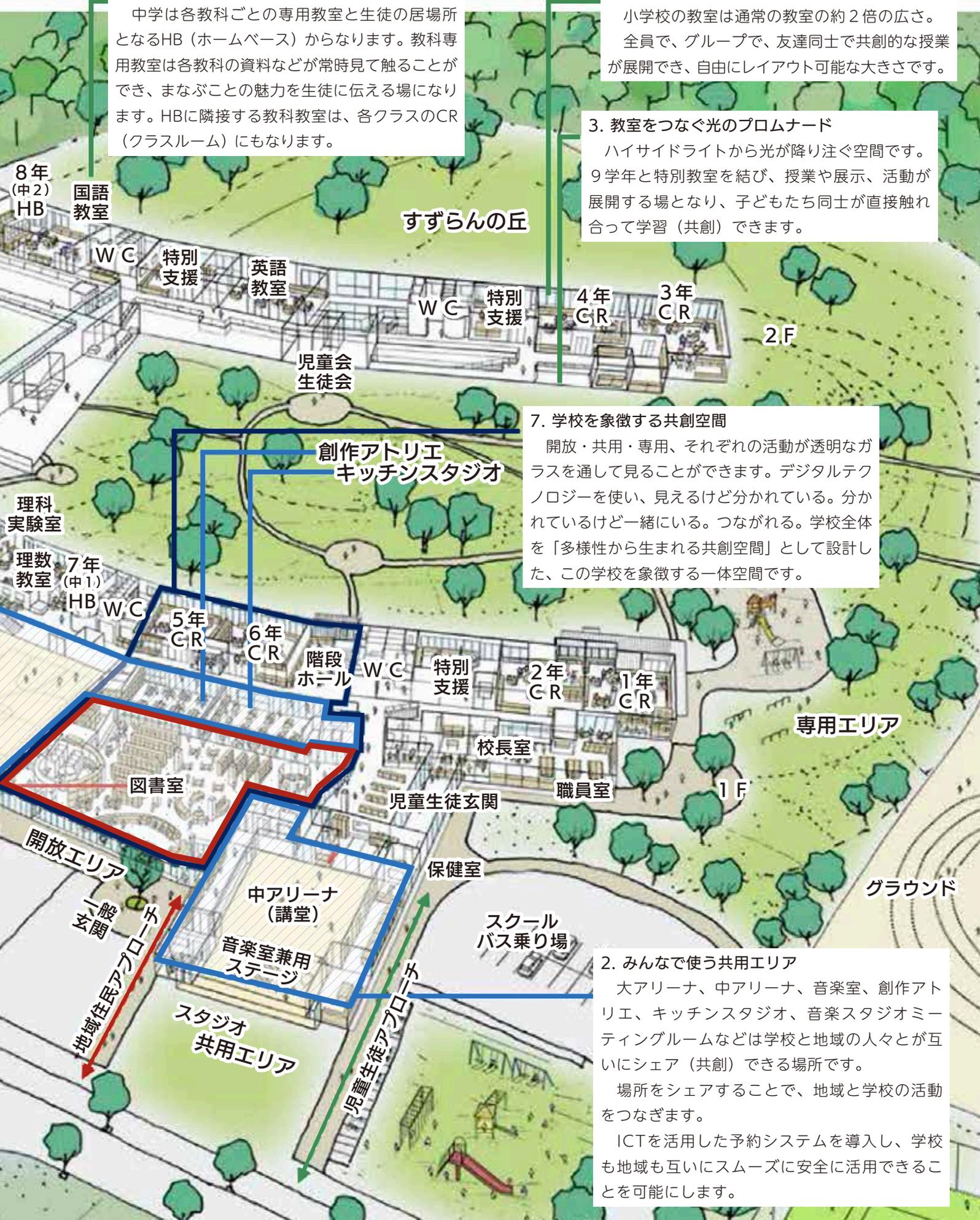


図3 新しい学校の実施設計報告